

PRESS RELEASE

恋のときめき・絶滅危惧 / 類 (広島県)

「オグラセンノウ」植栽！ 庄原実業連携



「オグラセンノウ」植栽場所作成の様子(H30年2月1日撮影)

希少種「オグラセンノウ」植栽！のお知らせ

今年度より新たな取り組みとして、庄原実業高等学校3年生と連携して希少種「オグラセンノウ」の植栽作業を、ひばの里「新池」周辺にて行います。

2月中に3回の活動を予定し、第1回目の2月1日(木)は植栽場所の地掘りを行いました。第2回目以降の活動は下記のように予定しております。

●庄原実業高等学校3年生による「オグラセンノウ」植栽作業

【開催日】 2月9日(金)・16日(金) ※荒天の場合は中止

【場 所】 ひばの里 新池周辺

【参加者】 咽原教諭(庄原実業高校食品工学科教諭)、庄原実業高等学校3年生(男子3名)

名称	日程	時間	内容
第1回	2月1日(木)	13:30~16:00	植栽場所作成(土掘り)
第2回	2月9日(金)	13:30~16:00(予定)	土留づくり、土壌改良
第3回	2月16日(金)	10:00~	苗の植栽(16株予定)、案内看板設置
第4回	4月頃予定	未定	苗の植栽

お問い合わせ先

国営備北丘陵公園 備北公園管理センター

企画広報課長： 竹本(たけもと)
企画広報係長： 末長(すえなが)

〒727-0021 広島県庄原市三日市町 4-10
TEL: 0824-72-7000 FAX: 0824-72-7828
ホームページ: <http://www.bihoku-park.go.jp>

国営備北丘陵公園へのオグラセンノウの植栽について

本校では、平成 10 年から希少植物であるオグラセンノウの遺伝資源の保存に取り組んできた。ナデシコ科のオグラセンノウは、広島県では、絶滅危惧種 I 類 (CR+EN) (環境庁 RDB 絶滅危惧 IB 類 (EN)) に属し、自然界では、絶滅の危機に瀕している状態である。

今まで、広島県に自生していたところでは、環境の変化によりほとんどが姿を消し、愛好家などにより、管理下において辛うじて残っている状態である。

本校では、科目「植物バイオテクノロジー」や科目「課題研究」において、継続して種の保存に取り組んできた。その内容は、無菌播種による方法、無菌的挿し木法による方法、茎頂培養による方法である。そして培養した苗を順化し、栽培床に植え付け増殖させている。

これまでに、比和町森脇の古家真屋敷跡や本校環境工学科が造成した備北丘陵公園のビオトープ地へ植栽した経緯がある。しかしながら、植栽したところから姿を消してしまい継続ができなくなっている。環境の変化やその他の様々な要因で姿を消したものと思われる。

これからの取り組みとしては、確実に種が保存できる方法を考える必要があると考えている。そこで、次のような方法で植栽を計画した。



1 国営備北丘陵公園との連携による植栽

備北丘陵公園では、これまでにエヒメアヤメやヒゴタイ、ササユリなどの希少植物の植栽を通じて、遺伝資源を保護されていることや、また以前にオグラセンノウの植栽に対して協力があつたことがあげられる。

2 遺伝資源の保存に協力していただける一般の方々がおられる。

<オグラセンノウの特性>

(ナデシコ科) *Lychnis kiusiana* Makino

オグラセンノウは、高さ 1 m ほどにもなるが茎は細く、自立せずに他の植物に寄り添う形で生育している。生育立地は湿原の中ではやや栄養分の多い立地であり、イメージとしては貧栄養と中栄養の中間の環境のようである。株は、耐寒性のある多年生草本である。

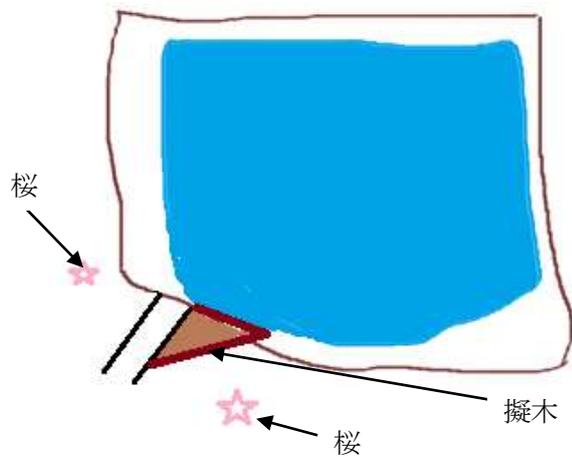
茎は細く、高さ 1 m 程になり、下向きに短毛がある。葉は対生し、長さは 4.5~11cm あり、基部が最も広く、両面には微毛が散生し、縁には毛がある。花は 6 月末から 9 月に咲き、鮮やかな紅色である。集散花序で 5 枚の花弁の先端は繊細に分裂し、基部には付属体があつて濃紫色の葯を付ける雄しべは 10 本ある。

参考・引用文献 (山野草を育てる Nori&Wako <https://www.sanyasou-sodateru.com/>)

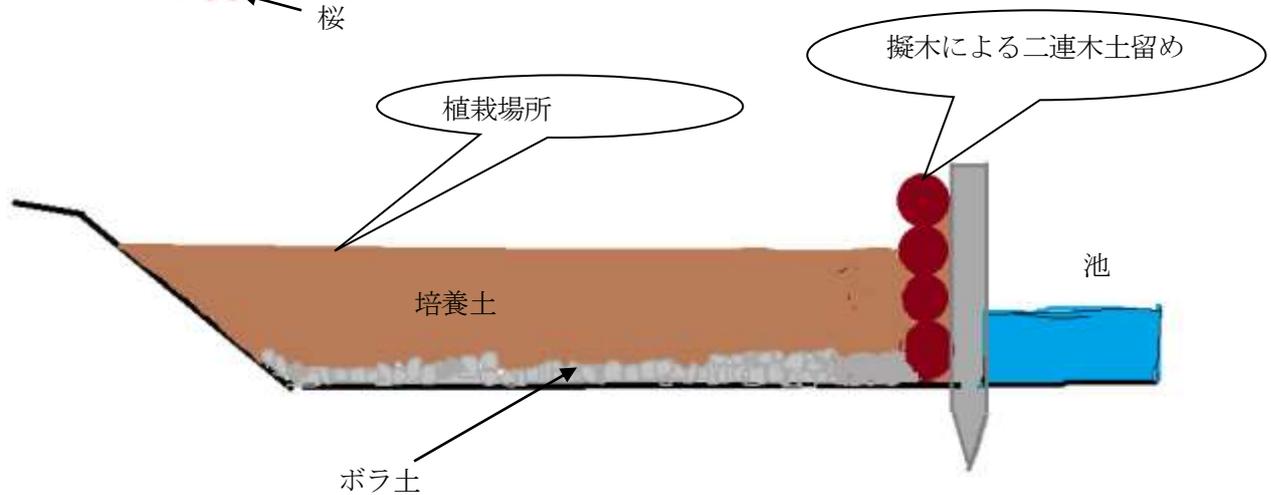
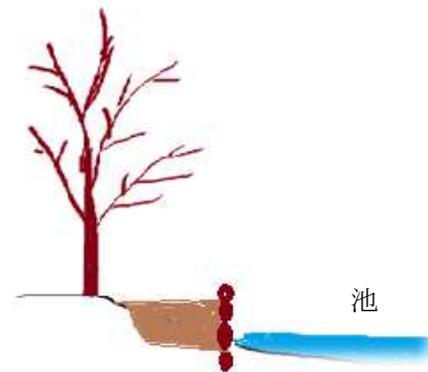
1 国営備北丘陵公園への植栽

(1) 植栽地と規模

平面図



断面図



①植栽場所： 「新池」の西側

②規 模： 1坪程度

(2) 植栽場所の土壌改良

① 用土 (オグラセンノウはアルカリ性を好む)

必要量 約合計 2 m³
市販の培養土を使用

② 肥料

草木灰

牡蠣殻 (脱塩処理済)

緩効性肥料 マグアンプK (生育中期に生育状況を判断して施用する)

(3) 植え付け場所の造成と用土の準備

① 植栽地の土壌改良

ア 植栽する場所の土留めに擬木を使用する。

イ 深さ 40 c m程度掘る。

ウ 培養土を入れる。

エ 草木灰 5 kg と牡蠣ガラを 500 g 加える。

カ 全体を丁寧に混ぜる。

② 植え付け

ア 新芽となるものを 4～5 本程度にまとめて植える。大きな株は分ける。

イ 植え付け時に、緩行性肥料を根に触れないように与える。

ウ 植え付け後、全面に少し小さく崩した腐葉土を 5 cm 程度敷く。

③ 寒さ除けのため敷き藁をする。

(4) 管理

ア 4 月中旬には、出芽してくる

イ 晴天が続く、乾きがひどい場合は灌水する。

ウ 5 月中旬ごろから茎が太く充実しているものは、摘心すると側枝が発生し、花の数が増える。摘心した芽は、挿し木に利用するとよい。

エ 6 月に入ると、日中日差しが強い場合は日よけをするほうがよい。

オ 草丈が、高くなり倒伏の可能性がある場合は、フラワーネットまたは支柱等で倒れないようにする。

(5) 開花

ア 6 月の終わりごろから早いものは咲き始める。

イ 花が終わったものから、摘み取り、側枝の伸長を促すと長く咲かすことができる。

ウ 採種の目的がある場合は、花を切らない。

(6) 増殖の方法

ア さし芽は 6 月に先端 5 cm くらいを砂に挿す。

イ 種子繁殖の場合は 1 月～3 月に播く。

(7) 作業日程

期 日	作業項目	内容
2 月 1 日 (木) 13 時 30 分～	植栽場所の作成	・ 地掘り
2 月 9 日 (金) 13 時 30 分～	擬木設置 培養土の搬入 土壌改良	・ 土留めのため擬木を設置する。 ・ 市販の培養土を利用する。 ・ 中和 牡蠣殻有機石灰又は苦土石灰 ・ 草木灰
2 月 16 日 (金) 10 時～	オグラセンノウの植え付け 看板設置	・ 苗の配置 ・ 定植

オグラセンノウ（小倉仙翁）

学名：*Lychnis kiusiana Makino*

科名：ナデシコ科

原産地：日本（広島・岡山・大分・熊本県の限定された地域）

RDB カテゴリー：広島県 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)，環境庁 絶滅危惧ⅠB類 (EN)

花言葉：恋のときめき，転機，名誉



本校では、平成8（1996）年からオグラセンノウの保存に取り組んできました。バイオテクノロジーの手法により、科目「課題研究」で歴代先輩から受け継いでいます。

この度は、国営備北丘陵公園のご協力により園内の新池のほとりに植栽することになりました。多年草の山野草で、開花時期の6月下旬から9月上旬に鮮やかなピンク色のきれいな花をつけます。ご来園された皆さまにご観賞いただければ幸いです。

広島県立庄原実業高等学校

希少種「オグラセンノウ」植栽場所作成の様子



「オグラセンノウ」植栽場所作成の様子（H30年2月1日撮影）



「オグラセンノウ」植栽場所の様子（H30年2月1日撮影）